

中日民間説話における異類婚姻譚の比較研究
—20世紀以降のタイプとモチーフを中心に—
(要旨)

広島大学大学院文学研究科
博士課程後期人文学専攻
学生番号:D156436
氏名:唐植君

本論では、20 世紀以降編集された民話集、即ち、口頭で語られ民間説話を記述している資料などを踏まえて、中日両国の民間説話における異類婚姻譚を丹念に収取し、中国と日本との比較を出発点として研究を行ってきた。そして、主に比較説話学、歴史地理学の方法を用い、歴史類型学と民俗学、文芸学の研究方法も参考にしながら、中日の異類婚姻譚におけるタイプとモチーフを中心として論を展開した。その後、異類婚姻譚の中日民間説話における位置付けを究明した。次に共時的、通時的な視点から、異類婚姻譚という昔話群が中日に伝承されているタイプの状況を総合的に考察した。その際、中日両国における異類婚姻譚のタイプとモチーフの共通点だけでなく、相違点にも注目し、中日異類婚姻譚の構造の比較研究を展開した。本論における各章の要約は以下の通りである。

序章では、初めに本論に関する問題の提起を行った。即ち、20 世紀以降中日民話における異類婚姻譚、特に異類婚姻譚のタイプとモチーフの伝承状況についてである。次に、本論の研究対象と研究範囲、研究の目的と意義について紹介した。さらに、20 世紀以降の中日民間説話と異類婚姻譚に対する先行研究、即ち、民間説話の話型分類とモチーフ研究の現状、中日民話における「異類婚姻」とその分類、異類婚姻譚のタイプとモチーフ研究の状況などを総合的に把握し、本研究の価値と可能性を言及した。最後に、本論の研究手法と各章の構成の概要について紹介した。

第 1 章では、まず「民間説話」、「民間故事」、「昔話」、「伝説」と「タイプ」、「モチーフ」、「話型」、「母題」など中日民間説話の研究に関わる用語を考察し、本論で使用される用語とその範囲について説明した。次に、本研究に使用される民間説話の資料、特に 20 世紀以降の中日民間口承によって伝承されてきた各民族の民間説話を収集する活動に基づいて編纂された代表的な民話集を紹介した。

第 2 章では、20 世紀以降の中日民間説話における比較研究と交流活動を紹介した。ここでは、探索期、回復期、繁盛期・安定期に分け、この三つの時期において、中日両国の民俗学と民間説話の研究者達が研究、交流、訪問を重ねた成果を概ねまとめた。これにより、中日における民間文学、民間説話ないしは異類婚姻譚への比較研究の可能性と研究方法などを究明した。

第 3 章では、歴史地理学の方法で作られた世界民話の話型分類（AT 分類）と 20 世紀以降における中国と日本の民話に関する幾つかの話型分類案から、世界の民話、中国の民話、日本の民話にある異類婚姻譚のタイプを抜き出した。そして、異類婚姻譚の中日民話各分

類案における位置、数量、分布の状況などを総合的に把握した。

第4章では、話型分類案にまとめた異類婚姻譚の話型と『日本昔話集成』、『日本昔話通観』、『中国民間故事集成』などから収集された数多くの異類婚姻譚のタイプを踏まえ、異類婚姻における異類の種類と性別を総合的に分析した後、中日異類婚姻譚を「人間と神様との婚姻譚」、「人間と妖怪との婚姻譚」、「人間と幽霊との婚姻譚」、「不思議な誕生と成長」、「忠貞な恋人の物化」の五つに分類し、中日民話における異類婚姻譚のタイプを歴史類型学の方法によって整理した。

第5章では、前章で整理した内容を基に、20世紀以降語られてきた中日異類婚姻譚のタイプ、または類似タイプをまとめて整理した。そして、「差異の中の類似」の探究と合わせて、「類似の中の差異」を追求し、中日両国の異類婚姻譚におけるタイプと主なモチーフの比較を行った。それから、中日異類婚姻譚におけるタイプとモチーフの比較を通して、両国の異類婚姻譚における共通点と差異点を把握し、両国の異類婚姻譚の構造を究明した。

終章では、前述の中日民話における異類婚姻譚のタイプとモチーフの分析を踏まえ、各章のポイントを要約し、本研究の結論を導いた。また、中日両国の民話におけるその他のテーマや類話など、今後の課題について展望した。

以上の研究を通して、本論の結論を以下のように導くことができる。

まずは、20世紀以降編纂された民間説話分類索引などによって、中日民間説話における異類婚姻譚の伝承状況が分かった。AT分類をはじめ、中日両国の民話の各分類案では、一様に異類婚姻譚のタイプを見つけられる。丁乃通、エーバー・ハルト、金栄華と関敬吾、池田弘子、稲田浩二により作成された大規模な索引は言うまでもなく、デニーズ、鐘敬文によって作られた民話分類への試みと見られる分類案においても、異類婚姻譚は一定の比率を占めている。各分類案の中でよく見られるのは、人間と動物との婚姻タイプで、いわゆる人間と妖怪（精霊なども含む）との婚姻である。人間と神様（仙人も含む）、人間と幽霊との婚姻については分類案ではあまり見られない。

次に、民話集、民話資料、民間説話分類索引などに基づいて、20世紀以降にも語られ続けている中日における異類婚姻譚のタイプを全体的に分類して整理した。すなわち、人間と神様との婚姻を19話型、人間と妖怪との婚姻を64話型、人間と幽霊との婚姻を11話型、不思議な誕生と成長を2話型、忠貞な恋人同士の物化を3話型とし、中日異類婚姻譚を合計99話型にまとめた。そのうち、中国民話の異類婚姻類は18話型、異類女房は27

話型、日本民話の異類聳類は 29 話型、異類女房類は 39 話型となっている。また、民話の資料に基づき、「鬼」(中国)、「狐」との異類婚姻、中日における「蛇郎」と「蛇聳入り」など、20 世紀以降の中日民話の分類案には収められていない話型、一部の話型のサブタイプを補充した。さらに、話型の整理により、本論では中日異類婚姻譚の類話を 16 組揃えた。そして、これまでの研究と対比させた後、本論では 20 世紀以降の中日異類婚姻譚の類話として新たに 7 組を補遺した。

また、中日両国の異類婚姻譚のタイプとモチーフに関する整理と比較によって、20 世紀以降語られている異類婚姻譚の構造が分かった。「異類聳」と「異類嫁」の異類婚姻譚における話型数と比率から考察した結果、中日両国の異類婚姻譚の構成は全体から各項目までほとんど同じだと見られる。まず、中日の民話はどちらも、「異類嫁」の方が「異類聳」より話型数が多く、異類婚姻譚全体に占める割合も高い。ただし、「人間と妖怪との婚姻譚」の項目では、逆に「異類聳」の話型数と割合の方が高くなる。次に、異類婚姻譚の各項目における「異類聳」と「異類嫁」の話型数差と比率差を見ると、中日両国の間であまり差が見られないことが明らかとなった。最後に、中日両国の異類婚姻譚には、「人間と動物との婚姻譚」が一番多いために、異類婚姻譚のことはよく「人間と動物」、「美女と野獣」というように呼ばれていると考えられる。また、中日両国の異類婚姻譚では、特に動物類と人間との婚姻譚に共通した話型が多いことも分かった。

加えて、中日異類婚姻譚の構造における共通点と個別点を一部見つけた。中日異類婚姻譚において好まれるモチーフから見ると、「聳入り」と「怪物退治」、「嫁入り」と「タブーの侵犯」が挙げられる。中日両国の異類婚姻譚、特に、動物類の婚姻譚では人間と異類との結合は弱く、あまり幸福な婚姻にはならない。また、異類聳は異類女房より結末がさらに悲惨になりがちである。そして、中国の異類聳も異類女房も「怪物」として退治されたら終わる場合が多いのに対して、日本の異類聳や異類女房は退治されるだけでなく、殺害に至る傾向が強いことも分かった。それに、「嫁入り」の「タブーの侵犯」に関して、中国の異類婚姻譚では、動物の女房も人間の男も「動物女房」を受け入れる度合いが高いと見られる。中国では最初に「正体が知られる」ことによる衝撃が弱く、離れても再会して共に帰るケースが多い。それに対し、日本では、「物を贈って自ら去る」、「離縁される」、「再会しても再び消える」のように、「異類の正体」について、異類女房も人間の男も反発が強く、受け入れるのが困難だということが分かった。

最後に、本論によって、今まで両国の社会における婚姻制度、社会風俗、婚姻観などの

一側面が窺えた。最初は、異類女房の来訪のような「嫁入り」モチーフは、社会の底辺にいる民衆達が現実生活では容易に得られない婚姻への願望により、今日まで伝わっているのではないかと考えられる。それから、異類婚説話の発端とも言える略奪婚、中日両国とも長い期間続いていた多偶婚の影響で、中日異類婚姻譚では人間と異類との婚姻関係の結合が弱く、離合も比較的容易であるという特徴が見られた。また、婚姻が破局になる理由として、人間と自然、あるいは底辺にいる民衆が所属する社会と調和できずに対立したり矛盾したりすることが示唆された。